

# 協議案件（2）令和7年度地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について（R6.10.1～R7.9.30）

## 1. 協議案件の概要

対象路線	<p>■丹海バス 峰山四辻線</p> <p>■予約型乗合交通 岩屋・市場エリア、山田エリア、石川エリア、与謝エリア、加悦エリア、桑飼エリア</p>
協議内容	上記路線を対象とする令和7年度（R6.10.1～R7.9.30）地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について承認を求める。
提案理由	国庫補助金（地域内フィーダー系統確保維持補助金）の交付を受けて対象路線の運行を確保維持しようとするときは、地域公共交通会議にて本計画の策定について協議を調える必要があるため。
経緯	<p>■令和6年2月28日 第44回与謝野町地域公共交通会議 （令和6年10月からの町営バス再編方針を確認）</p>
備考	計画の認定申請に対する国からの指摘事項への対応については事務局へ一任願います。

## 2. 令和7年度地域内フィーダー系統確保維持計画

別紙「資料8－1」のとおり

国土交通大臣 殿

氏名又は名称 与謝野町  
住 所 京都府与謝郡与謝野町字岩滝 1798 番地 1  
代 表 者 氏 名 与謝野町長 山添 藤真

地域公共交通計画認定申請書

地域公共交通計画のうち、地域公共交通確保維持事業に係る計画を別紙のとおり定めたので、関係書類を添えて申請します。

※本申請書に、記載すべき事項を全て記した地域公共交通計画を添付すること。

補助要綱規定事項一覧表

自治体名:与謝野町

計画名称:与謝野町地域公共交通計画

		地域公共交通計画での記載箇所（頁）
補助要綱第17条第1項に規定する事項	（第1号関係） 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の地域の公共交通における位置付け・役割	P.4 「1.3 計画策定の条件」
	（第2号関係） 上記を踏まえた地域公共交通確保維持事業の必要性	P.6 「1.3 計画策定の条件」 (4) 地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助）の必要性について
	（第3号関係） 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統に係る事業及び実施主体の概要	P.14 「2.3 公共交通機関の状況」 (2) 路線バス等の運行状況
	（第4号関係） 地域公共交通計画の区域内全体における地域旅客運送サービスの利用者の数、収支、費用に係る国又は地方公共団体の支出の額その他の定量的な目標・効果及びその評価手法	「4.1 計画の目標指標及び達成状況の評価」

# 与謝野町地域公共交通計画

令和6年3月

与謝野町

### 1-3 計画策定の条件

#### (1) 計画期間

本計画の期間は、令和5年度から令和8年度までの4年間とします。なお、本計画の策定後、社会情勢や交通を取り巻く環境に著しい変動等が生じた場合は、必要に応じ計画の見直しを行います。

#### (2) 計画の区域

本計画の対象区域は、本町全域とします。

#### (3) 地域公共交通の位置づけと役割（対象交通機関）

本計画が目指すべき地域公共交通の将来像を実現するために、本計画で対象とする公共交通とその役割を次のとおり定めます。

##### ア 基幹的な交通

交通の種類	役割	確保・維持策
〔鉄道〕 京都丹後鉄道（宮豊線）	与謝野町と近隣市・京阪神 都市圏等を結ぶ広域的・基 幹的な公共交通	現在のサービスレベル維 持に向けた働きかけ・利用 促進
〔高速バス〕 丹海高速バス（大阪線、京 都線）		

## イ 幹線的な交通

交通の種類	役割	確保・維持策
[路線バス] 丹海バス（伊根線、蒲入線、与謝線、峰山線）	地域の各拠点と都市拠点を結ぶ町内移動や隣接市町への移動のための公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安定的な運行の確保、まちづくりと連携した利便性の向上</li> <li>● 地域公共交通確保維持事業（幹線補助）を活用した持続可能な運行</li> </ul>
[路線バス] 丹海バス（福知山線、峰山四辻線）		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安定的な運行の確保、まちづくりと連携した利便性の向上</li> <li>● 地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助）と京都府交通確保対策費補助金を活用した持続可能な運行</li> </ul>

## ウ 支線的な交通

交通の種類	役割	確保・維持策
[路線バス] コミュニティバスひまわり（奥滝線、加悦奥線）	基幹的な公共交通や幹線的な公共交通を補助する公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 幹線から離れた地域に住む方々の買い物や通院等に利用しやすい安定的な運行の確保</li> <li>● 地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助）と京都府交通確保対策費補助金を活用した持続可能な運行</li> </ul>
[一般乗合旅客自動車運送※] よさの乗合交通（岩屋・市場エリア、山田エリア、石川エリア）		
[交通空白地有償運送] よさの乗合交通（桑飼エリア）		

※本計画策定現在、道路運送法第 21 条に基づく実証運行を実施中。

(4) 地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助）の必要性について

下表の地域内フィーダー系統は、住民の通院、通学、買い物などの移動手段として重要な役割を担っており、国の地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助）を活用しています。引き続き、国の支援策を活用しながら、交通事業者や住民との共創によるモビリティマネジメントや利用促進策を講じる中で地域内フィーダー系統を維持・確保していきます。

なお、本計画には具体的な実施施策（P32）と定量的な目標（P39-41）を記載しています。

表 1-2 地域内フィーダー系統の概要

事業者名	交通の種類	系統名	運行様態	実施概要
丹後海陸交通株式会社	丹海バス	峰山四辻線	路線定期運行	与謝野町と京丹後市峰山町間における一般乗合旅客自動車運送
丹後海陸交通株式会社	コミュニティバス ひまわり	奥滝線 加悦奥線	路線定期運行	算所・加悦奥・加悦・与謝・滝・金屋・温江地区における一般乗合旅客自動車運送
日本交通株式会社	よさの乗合交通	岩屋・市場エリア 山田エリア 石川エリア	区域運行	三河内・岩屋・幾地・四辻・上山田・下山田、石川地区における一般乗合旅客自動車運送※
桑飼地区 支え合い交通 運営協議会	よさの乗合交通	桑飼エリア	区域運行	桑飼地区における交通空白地有償運送

※本計画策定現在、道路運送法第 21 条に基づく実証運行を実施中。

## (2) 路線バス等の運行状況

町内を運行する路線は8路線あり、丹後海陸交通株式会社が運行する幹線系統の丹海バスと、幹線系統バスが運行されていない地区の住民の日常生活に必要な移動手段としてコミュニティバスひまわり（町営バス）と、よさの乗合交通（予約型乗合交通）があります。

表 2-2 丹海バスの運行状況

No.	系統名	路線延長	運行便数	補助事業の活用
1	伊根線	37.2km	平日 14 便、土日祝 8 便	国補助路線（幹線系統）
2	蒲入線	48.4km	平日 9 便、土日祝 9 便	
3	与謝線	22.5km	平日 15 便、土日祝 12 便	
4	峰山線	16.5km	平日 13 便、土日祝 12 便	
5	峰山四辻線	20.0km	平日 10 便、土日祝 10 便	国補助路線（フィーダー系統） 府補助路線
6	福知山線	28.6km	平日 6 便	町補助路線

表 2-3 コミュニティバスひまわり（町営バス）の運行状況

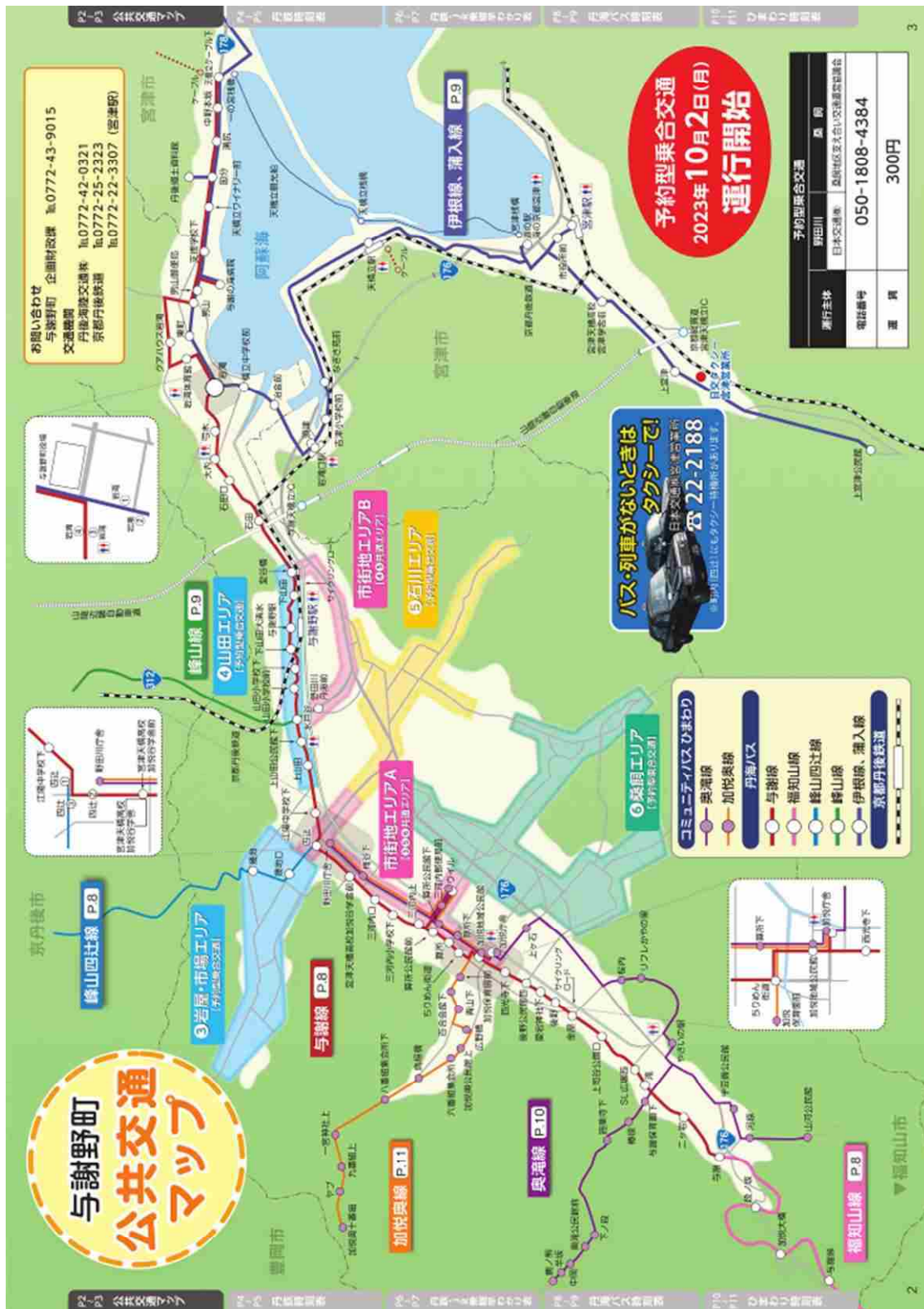
No.	系統名	路線延長	運行便数	補助事業の活用
1	奥滝線	17.8km	月・水・金曜日 4 便	国補助路線（フィーダー系統） 府補助路線
2	加悦奥線	9.9km	月・水・金曜日 4 便	

表 2-4 よさの乗合交通（予約型乗合交通）の運行状況

No.	系統名	運行便数	補助事業の活用
1	岩屋・市場エリア	月・水・金曜日 7 便	国補助路線（フィーダー系統） 府補助路線
2	山田エリア	月・水・金曜日 7 便	
3	石川エリア	火・木・土曜日 7 便	
4	桑飼エリア	月～土曜日 7 便	



図 2 - 8 与謝野町の交通体系



出典：与謝野町公共交通時刻表（与謝野町公共交通マップ）第 27 版

### 3-2 施策目標別実施事業

基本方針に沿って、目指すべき将来像を実現するための方策を推進します。

#### 施策目標 1 公共交通利用者の満足度がより高まるサービスの実現

利用者の満足度を高めることで、移動手段として選ばれ、新たな利用者がさらに生まれるような好循環を生み出すための取組を展開します。

#### 方策 1-1 路線バス・地域内交通の再編による持続可能な交通体系の構築

交通事業者と地域住民を運行主体として、町の南北を縦断する幹線道路から離れた地域と路線バス（幹線系統）とを接続する予約型乗合交通を導入するなど交通体系の見直しを行います。さらに、運行実績の検証や利用者ニーズを踏まえ、満足度の向上を図るほか、効率的な運行を目指して、運行主体と協議しながら持続可能な運行体制や交通体系を構築します。

実施主体と役割	与謝野町：ニーズや課題の把握、運行体系再編案の作成、運行事業者との調整、乗降場所の調整、必要な財政支援 交通事業者：安全な運行サービスの提供、運行上で発生した課題の共有、再編に係る必要な情報提供			
スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	再編（予約型乗合交通実証運行開始）	再編（持続可能な運行体制や交通体系の構築検討）		

### 方策 1-2 交通結節点での乗り継ぎを考慮した運行ダイヤの調整

通勤・通学、買い物、通院など日常生活の移動や来訪者の移動をスムーズに行えるようにするため、与謝野駅など交通結節点での交通機関の乗り継ぎを考慮した運行ダイヤの調整を行い、利用者の満足度を高めます。

実施主体と役割	与謝野町・交通事業者：ニーズや課題の把握、停留所の新規・移設・廃止の調整 地域住民：ニーズや課題、改善要望の伝達 関係機関：運行時刻変更の周知協力			
スケジュール	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
	ダイヤ改正時に実施			

### 方策 1-3 与謝野駅 100 周年に向けた駅周辺部の賑わいづくりと待合環境の整備

行政と民間事業者、地域住民と協力し与謝野駅周辺部の賑わいづくりを実施します。その中で令和 7 年度に与謝野駅が 100 周年を迎えることを受け、利用者のニーズに合うように与謝野駅の待合環境を整備し、ストレスなく公共交通を利用できるよう利便性や快適性を向上させる取組を実施します。

実施主体と役割	与謝野町：地域や民間事業者との調整、必要な財政支援 民間事業者：駅周辺部の賑わいづくりに向けた地域、町との調整、企業誘致や事業展開 地域住民：ニーズの把握、100 周年に向けた機運の醸成			
スケジュール	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
		設計、施工		

#### 方策 1 - 4 積極的な情報発信とタイアップ事業の実施

広報誌やＳＮＳなどを活用し、公共交通の乗り方や利用を促すプランの提案など積極的に情報を発信するとともに、町が主催するイベントと公共交通のタイアップの取組を推進します。

実施主体と役割	与謝野町：広報誌や町ＨＰ、ＳＮＳでの情報発信、公共交通を利用した事業の企画・運営 交通事業者：情報発信、町事業への参画			
スケジュール	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	実施可能な取組から着手			

## 施策目標 2 だれもが公共交通の使い方を理解し、 移動することが楽しくなるまちの実現

公共交通「も」利用した移動方法を知ること、自家用車にはない移動の楽しさを実感できる取組を展開します。

### 方策 2-1 幅広い年齢層へ向けた公共交通の乗り方教室やお試し乗車会等の実施

小中学生や子育て世代、高齢者を対象とした公共交通の乗り方教室や、町内イベントや商業者などと連携したお試し乗車会を通して、公共交通に触れることができる、使い方を知ることのできる「体験の場づくり」を行います。

実施主体と役割	与謝野町：乗車会等の企画、提案、実施、情報発信 交通事業者…乗車会等の実施、情報発信 商業者…乗車会の共同企画 関係機関・地域住民：乗車体験会等への積極的な参加			
スケジュール	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
	年 1 ～ 2 回実施			

### 方策 2-2 運転免許証自主返納者の利用促進

運転免許証自主返納後に公共交通を利用するきっかけとなるよう、運転免許証自主返納者に対して公共交通の回数券を交付します。

実施主体と役割	与謝野町：情報発信、警察等の関係機関との協力 自主返納者：公共交通の積極的な利用			
スケジュール	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
	通年実施			

### 施策目標3 自家用車に過度に頼らない、 まちづくりと連携した公共交通の実現

自家用車に頼り過ぎなくとも移動可能となるように、まちづくりと連携した利用しやすい移動手段となる公共交通を実現するための取組を展開します。

#### 方策3-1 商業者等他分野の関係者との連携による外出機会の創出

商業者等公共交通以外の他分野の関係者と連携して、公共交通と連動したサービスの提供や運行ダイヤを調整し、買い物を中心とする様々な外出機会を創出します。

実施主体と役割	与謝野町：関係者との調整、共創プラットフォームの設置・運営、情報発信 商業者等：乗降場所の提供、公共交通と連動したサービスの提供や協賛、情報発信			
スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	通年実施			

#### 方策3-2 交通事業者の人材不足の解消

交通事業者の深刻な人材不足の解消を図り、安全・安心で持続可能な交通サービスを維持するため、北部圏域での取組と連携し、人材確保の取り組みを推進します。

実施主体と役割	与謝野町：企業説明会等の周知、情報発信、広域との連携 交通事業者、関係機関：企業説明会等への参加、情報発信			
スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	実施可能な取組から着手			

## (2) 評価項目

「地域公共交通計画等の作成と運用の手引き（実践編）第4版」（令和5年10月・国土交通省）第4章に記載の標準指標のほか、本町の地域公共交通である町営バス「コミュニティバスひまわり」の利用者数と予約型乗合交通の利用者数を評価項目に加えます。また、京都府北部地域連携都市圏公共交通計画にも挙げられているお試し乗車会の実施件数・延べ参加人数も評価項目に加えます。

項目	目標値の考え方
ア 地域公共交通の利用者数	コロナ禍で落ち込んだ利用者数を徐々に戻していくため、令和3年度比 <sup>※</sup> で利用者数の5%向上を図る
イ 公的資金が投入されている公共交通の収支率	コロナ禍で落ち込んだ運賃収入を徐々に戻していくため、令和3年度比 <sup>※</sup> で収支率の5%改善を図る
ウ 利用者一人当たりの公的資金投入額	利用者増による運賃収入の増加を図り、利用者一人当たりの公的資金投入額を、令和3年度比 <sup>※</sup> で5%縮小を図る
エ お試し乗車会の実施件数・延べ参加人数	公共交通の利用機会を増やすため、徐々にお試し乗車会の実施件数も増やしていき、令和8年度には年間の延べ参加者数を30人にする。

※京都府北部地域連携都市圏公共交通計画との整合性を図るため、令和3年度に設定します。

(3) 各評価項目の現況と目標値

ア 地域公共交通の利用者数

(ア) 地域間幹線系統

運行主体	系統名	利用者数（人）	
		現況（R3年度）	目標（R8年度）
丹後海陸交通	伊根線	103,870	109,063
	蒲入線	31,378	32,946
	与謝線	55,272	58,035
	峰山線	51,039	53,590

(イ) 市町間を跨ぐ路線

運行主体	系統名	利用者数（人）	
		現況（R3年度）	目標（R8年度）
丹後海陸交通	福知山線	12,775	13,413
	峰山四辻線	19,935	20,931

(ウ) 地域内交通

運行主体	系統名	利用者数（人）	
		現況（R3年度）	目標（R8年度）
与謝野町 （町営バス）	奥滝線	—	550
	加悦奥線	—	400
日本交通 （乗合交通）	岩屋・市場エリア	—	650
	山田エリア	—	40
	石川エリア	—	630
桑飼地区 支え合い交通 運営協議会 （乗合交通）	桑飼エリア	—	630



イ 公的資金が投入されている公共交通の収支率

運行主体	系統名	現況収入額 (R3 年度) (円)	現況支出額 (R3 年度) (円)	収支率 (%)	
				現況 (R3年度)	目標 (R8年度)
丹後海陸交通	伊根線	8,602,705	51,477,450	16.7	17.5
	蒲入線	12,179,199	51,803,611	23.5	24.6
	与謝線	8,157,472	35,893,005	22.7	23.8
	峰山線	6,176,894	23,798,948	25.9	27.1
	福知山線	4,452,943	11,929,482	37.3	39.1
	峰山四辻線	3,464,327	14,741,284	23.5	24.6
与謝野町 (町営バス)	奥滝線	—	—	—	1.9
	加悦奥線	—	—	—	1.4
日本交通 (乗合交通)	岩屋・市場エリア	—	—	—	3.0
	山田エリア	—	—		
	石川エリア	—	—	—	4.0
桑飼地区 支え合い交通 運営協議会 (乗合交通)	桑飼エリア	—	—	—	3.2

ウ 利用者一人当たりの公的資金投入額

運行主体	系統名	現況支援額 (R2年度) (千円)	現況利用者数 (R2年度) (人)	利用者一人あたり 公的資金投入額 (円)	
				現況 (R2年度)	目標 (R8年度)
丹後海陸交通	伊根線	26,309,000	114,615	229	218
	蒲入線	19,562,000	38,074	513	487
	与謝線	16,853,000	43,412	388	369
	峰山線	9,804,000	41,581	235	223
	福知山線	6,516,539	12,275	530	503
	峰山四辻線	4,974,957	19,935	249	237
与謝野町 (町営バス)	奥滝線	—	—	—	2,492
	加悦奥線	—	—	—	4,175
日本交通 (乗合交通)	岩屋・市場エリア	—	—	—	6,328
	山田エリア	—	—		
	石川エリア	—	—	—	7,049
桑飼地区 支え合い交通 運営協議会 (乗合交通)	桑飼エリア	—	—	—	7,751

エ お試し乗車会の実施件数・延べ参加人数

現況 (R4年度)		目標 (R8年度)
実施回数 年間0回 延べ参加者数 0人	→	実施回数 年間2件 延べ参加者数 30人

令和 6 年 6 月 日

（名称）与謝野町地域公共交通会議

## 1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

与謝野町の公共交通は、丹後地域唯一の鉄道である京都丹後鉄道宮豊線と丹後海陸交通が運行する路線バスにより構築されている。京都丹後鉄道宮豊線は町内唯一の駅である与謝野駅を中心に町域を横断する形で運行されており、一方、路線バスは岩滝地域を中心に宮津市、伊根町を阿蘇海沿いに結ぶ系統と、岩滝地域、野田川地域、加悦地域と町域のほぼ中心を縦断する系統となっている。これらの路線バスは、本町のみならず近隣の市町との地域間の輸送手段として地域間幹線系統の役割を担っており、特に高齢者、通学者が利用している。

しかし、幹線から離れた地域においては、自家用自動車を中心とした移動にならざるを得ないものの、人口減少、高齢化が進行しており、加えて、令和 2 年度は路線バスの峰山四辻線の再編、令和 5 年度は路線バスの一部を再編し予約型乗合交通の運行を開始し、令和 6 年度は町営バスを再編し予約型乗合交通への完全移行予定としており、沿線地区住民の買い物、通院等の生活に必要な交通手段の確保がこれまで以上に求められている。

このため、本事業では、これらの幹線から離れた地域に居住している住民の日常生活に必要な交通手段を確保するため、幹線へアクセスする路線バス、予約型乗合交通の運行に取り組むものである。

## 2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果

## （1）事業の目標

路線バス：峰山四辻線の利用者数（延べ人数）が 21,000 人となる。

峰山四辻線の収支率を令和 3 年度対比で 1 %改善する。

【算出根拠】与謝野町地域公共交通計画 P39 参照

R3 実績 19,935 人の 5 %改善を目標値とする

$\Rightarrow 19,935 \times 1.05 = 20,931 \approx$  利用者数 21,000 人

乗合交通：予約型乗合交通の全体利用者数（延べ人数）が 3,210 人となる。

【算出根拠】与謝野町地域公共交通計画 P39 参照

日本交通	目標値	加悦地域支え合い交通運営協議会	目標値
岩屋・市場エリア	650 人	加悦エリア	630 人
山田エリア	40 人	与謝エリア	630 人
石川エリア	630 人	桑飼エリア	630 人

## （2）事業の効果

幹線へアクセスする路線バス、乗合交通を維持することにより、日常生活に不可欠な交通手段が確保されるとともに、高齢者等の外出が容易になり社会参加の促進が期待される。

### 3. 2. の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

- 方策 1-1 路線バス・地域内交通の再編による持続可能な交通体系の構築  
 方策 1-2 交通結節点での乗り継ぎを考慮した運行ダイヤの調整  
 方策 1-3 与謝野駅100 周年に向けた駅周辺部の賑わいづくりと待合環境の整備  
 方策 1-4 積極的な情報発信とタイアップ事業の実施  
 方策 2-1 幅広い年齢層へ向けた公共交通の乗り方教室やお試し乗車会等の実施  
 方策 2-2 運転免許証自主返納者の利用促進  
 方策 3-1 事業者等他分野の関係者との連携による外出機会の創出  
 方策 3-2 交通事業者の人材不足の解消

地域住民、交通事業者、事業者等他分野の関係者、行政、が相互に理解し、連携しながら施策に取り組む

※与謝野町地域公共交通計画 P. 32～36 に記載

### 4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運送予定者

路線バス：丹後海陸交通株式会社  
 乗合交通：日本交通株式会社、加悦地域支え合い交通運営協議会  
 ※地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱「表 1」を添付。

### 5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額

路線バス：与謝野町から運行事業者への補助金額については、運行収入及び国庫補助金を運行経費から差し引いた差額分を負担することとしている。  
 乗合交通：野田川地域の運行は与謝野町から日本交通株式会社へ業務委託。加悦地域の運行は加悦地域支え合い交通運営協議会が行う。どちらも運行経費から運行収入を差し引いた差額分を負担することとしている。

### 6. 2. の目標・効果の評価手法及び測定方法

- ・乗合交通利用者を対象にアンケート調査を実施
- ・運行事業者への聞き取り
- ・区長連絡協議会において、実績確認・意見聴取

### 7. 別表 1 の補助対象事業の基準ホただし書に基づき、協議会が平日 1 日当たりの運行回数が 3 回以上で足りると認めた系統の概要

#### 【地域間幹線系統のみ】

※該当なし

### 8. 別表 1 の補助対象事業の基準二に基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」と認めた市町村の一覧

#### 【地域間幹線系統のみ】

※該当なし

### 9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

#### 【地域間幹線系統のみ】

※該当なし

### 10. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要

<b>【地域内フィーダー系統のみ】</b>
地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱「表 5」を添付
11. 車両の取得に係る目的・必要性 <b>【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
※該当なし
12. 車両の取得に係る定量的な目標・効果 <b>【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
（１）事業の目標
※該当なし
（２）事業の効果
※該当なし
13 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者又は地方公共団体、要する費用の総額、負担者とその負担額 <b>【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
※該当なし
14. 老朽更新の代替による費用の削減等による地域公共交通確保維持事業における収支の改善に係る計画（車両の代替による費用削減等の内容、代替車両を活用した利用促進策） <b>【公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
※該当なし
15. 貨客混載の導入に係る目的・必要性 <b>【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
※該当なし
16. 貨客混載の導入に係る定量的な目標・効果 <b>【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
（１）事業の目標
※該当なし
（２）事業の効果

※該当なし

## 17. 貨客混載の導入に係る計画の概要、要する費用の総額、内訳、負担者及び負担額【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】

※該当なし

## 18. 協議会の開催状況と主な議論

## 【与謝野町地域公共交通会議】

平成 24 年 2 月 6 日 コミュニティバスひまわり運行計画の変更を承認  
 平成 24 年度地域内フィーダー系統確保維持計画の変更を承認  
 平成 24 年 5 月 23 日 平成 24 年度地域内フィーダー系統確保維持計画の変更を承認（書面）  
 平成 24 年 6 月 27 日 平成 25 年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認  
 平成 25 年 2 月 22 日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価  
 平成 25 年 5 月 27 日 平成 26 年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認  
 平成 26 年 2 月 18 日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価  
 平成 26 年 6 月 26 日 平成 27 年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認  
 平成 27 年 1 月 29 日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価  
 平成 27 年 6 月 24 日 平成 28 年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認  
 平成 28 年 1 月 25 日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価  
 平成 28 年 6 月 27 日 平成 29 年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認  
 平成 29 年 1 月 23 日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価  
 平成 29 年 8 月 23 日 平成 30 年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認  
 平成 30 年 1 月 25 日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価  
 平成 30 年 6 月 25 日 平成 31 年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認  
 平成 31 年 2 月 21 日 平成 31 年度地域内フィーダー系統確保維持系統計画の変更を承認  
 平成 31 年 2 月 28 日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価  
 令和元年 5 月 20 日 令和 2 年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認  
 令和元年 10 月 17 日 丹海バス路線における昼間回数券の廃止を承認（書面）  
 令和 2 年 2 月 18 日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価  
 令和 2 年 6 月 29 日 令和 3 年度地域内フィーダー系統確保維持系統計画を承認  
 令和 3 年 1 月 29 日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価（書面）  
 令和 3 年 6 月 24 日 令和 4 年度地域内フィーダー系統確保維持系統計画を承認  
 令和 3 年 12 月 1 日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価  
 令和 4 年 6 月 21 日 令和 5 年度地域内フィーダー系統確保維持系統計画を承認  
 令和 5 年 1 月 30 日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価  
 令和 5 年 6 月 28 日 令和 6 年度地域内フィーダー系統確保維持系統計画を承認  
 令和 6 年 1 月 25 日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価  
 令和 6 年 6 月 7 日 令和 7 年度地域内フィーダー系統確保維持系統計画を承認

## 19. 利用者等の意見の反映状況

乗合交通利用者を対象にアンケート調査の実施、運行事業者への聞き取りにより利用者の電話予約受付時間を伸ばしてほしい、山田エリアにおいて石川エリアへの乗り入れをしてほしいという要望に応えるかたちで、令和 6 年 4 月に運行内容を変更した。  
 具体的には、電話予約受付時間を朝 9 時からを 8 時 30 分から 30 分延長し、平日のみの受付を月曜日から土曜日まで延長した。また、山田エリアから要望のあった石川エリアの一部乗降場への乗り入れを可能にすることで変更を行った。

【本計画に関する担当者・連絡先】

別 紙（地域内フィーダー系統）

（住 所）京都府与謝郡与謝野町字岩滝 1798 番地 1

（所 属）与謝野町 企画財政課 企画政策係

（氏 名）本田 智宏

（電 話）0772-43-9015（内線 2038）

（e-mail）kikakuzaisei@town.yosano.lg.jp

注意： 本様式はあくまで参考であり、補助要綱の要件を満たすものであれば、この様式によらなくても差し支えありません。

実際の計画作成に当たっては補助要綱等を踏まえて作成をお願いいたします。

各記載項目について、地域公共交通利便増進実施計画及び地域旅客運送サービス継続実施計画を作成している場合には、当該計画から該当部分を転記したり、別添〇〇計画△節のとおり、等として引用したりすることも可能です。（ただし、上記 2.・3. については、地域公共交通利便増進実施計画及び地域旅客運送サービス継続実施計画に定める目標、当該目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項との整合性を図るようにして下さい。また、地域公共交通計画全体として、協議会における協議が整った上で提出される必要があります）。

※該当のない項目は削除せず、「該当なし」と記載して下さい。